

## 今日のみことば

### □ 2月11日(日) 士師記 3章

イスラエルの民は主が先祖たちに命令に従うことに失敗し、偶像礼拝の罪を犯した。そのために主は彼らの異教の王の手にわたされた。

### □ 2月12日(月) 士師記 4章

神は一人の婦人デボラを選び、彼女によってイスラエルを勝利に導くことが出来る人バラクが招かれた。イスラエル軍とカナン軍の戦いは軍事的に不利であったが勝利を収める。

### □ 2月13日(火) 士師記 5章

このデボラの歌は、主をほめたたえるさんびかです。イスラエルの村々は主の村であり、イスラエルは主の民である。デボラは当時の不安な状態を生き生きと描写している。

### □ 2月14日(水) 士師記 6章

士師ギデオンが起こされた時のイスラエルは、ミデアン人の支配下にありみじめな状態であった。人々の祈りに対する神の答えは預言者を遣わすこと。そしてギデオンを遣わされた。

### □ 2月15日(木) 士師記 7章

ギデオンの下に集まった者は三万二千人。神は人数が多すぎると言われ、神はついに三百人に絞られた。私たちは人に頼るのでなく神に頼るのです。

### □ 2月16日(金) 士師記 8章

ギデオンが完全な勝利を得ると人々は彼を王に迎えようとしたが彼は神のみが支配者だと断った。しかしその彼も、大祭司を軽んじる罪からは逃れることは出来なかった。

### □ 2月17日(土) 士師記 9章

ギデオンの子アビメレクは神を恐れぬ行為を行った。ヨタムやガアルは正義の声を発したがそれは聞かれず、暗黒の時代が訪れた。しかしこのような時でも神は不在ではなかった。

---

ろ ぼ No. 1854  
2018年 2月11日  
日本バプテスト立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

列王記上 18:21

エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」民はひと言も答えなかった。

このエリヤのことばに「民はひと言も答えなかった」とあります。神の慈しみの中にある自分たちを知っているイスラエルの民が、エリヤのことばに即答できなかった。そこには人間の利害関係の中で、自分の位置を考える愚かしさを見せつけられることでした。私たちははどれほどしっかりと神と結びついた日常を生活しているかを思い知らされることのほかのなにものでもありません。

ペトロとヨハネが、キリストの名を語ることに禁じられて、議会に呼び出されて、尋問されたときに「しかし、神の前にハネは答えた。『神に従わないで、あなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えて下さい。わたしたちは、見たことや聞いたことを

話さないではいられないのです』」(使徒4:19-20)と答えました。彼らがどれほどイエスを通して、父なる神さまとしっかりと結びついてきたかを知らされることでした。そこにはパウロが「わたしの主キリスト・イエスを知ることの、あまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見ています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたとみなしたいと思います。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです」(ピリ3:8)と言った思いを、心に留めさせていただいています。私たちはどうでしょうか。

神の国イスラエルが、バアル神に仕えるアハブ王によって離れようとする民に、神は干ばつを持ってそれに応えられ、エリヤはバアル神に仕える預言者850人との対決をアハブ王に迫りました。このバアルの預言者たちとの対決は壮絶なものでしたが、その結果はエリヤの勝利でした。神はエリヤの祈りに応えて下さいました。「これを見たすべての民はひれ伏し『主こそ神です。主こそ神です』と言った」(列王記上18:39)のでしたしかし、アハブ王はその舌が渴くまもなく、王妃イザベルにそそのかされてエリヤの命を狙いました。

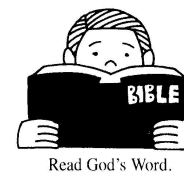
パウロは「私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。『あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。』と書いてあるとおりですがしかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちが引き離すことはできません。」(Ⅰコリ8:35-38)と言いました。私たちはしっかりと、主イエス・キリストを信じる信仰に生き抜くことを通して、最高の喜びの日々を送らせていただくのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
マルコ 10:17-27 神は何でもできる

このイエスの出来事を私たちはどのように聞きとっているのでしょうか。キリストの従う者はすべて無一文になるべきだと教えているのでしょうか。イエスは一人の人に語りかけられているのです。この若者も永遠のいのちを切実な問題としていたまじめな人物でした。しかし彼には一つものが欠けていましたそれは信仰でした。

彼は律法は外見的行ってきましたが、信仰を正しく得ていなかったために、律法を内面的に正しく守ることが出来ませんでした。しかし、そのことさえ分かりませんでした。

だから主から応用問題を出されると、すぐにつまづいてしまいました。彼はそれを解くために、主に頼ろうとはしませんでした。どのようなものでも、生活の第一の座を占めているものを取り除かねばなりません。それゆえにイエスは「帰って・・・売り」そして私に従いなさいと言われました。



次週の聖書・説教

ヨハネ2:1-11 神にはいつも最良の時